

令和3年1月6日

# 南の風 For Junior27

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

ミニバス、中学生の選手の皆さん！ バスケットボール関係者の皆様、

明けましておめでとうございます！今年も『南の風 For Junior』をよろしくお願いいたします。

昨年は、コロナ、コロナで終わってしまった一年でしたね。私たち一人ひとりが、新型コロナウイルス感染症対策を万全にして行動し、感染拡大を何とか防ぎ収束へ向けて努力しましょう！

今回は、ウインターカップ2020、第73回全国高等学校バスケットボール選手権大会の様子を書きます。選手の皆さんは、ネットの見逃し動画で観ながら読み進めるのもいいと思います。

女子決勝戦です。戦評風に書きます。

2連覇が懸る桜花学園と、35年ぶりの優勝を狙う東京成徳の対戦となりました。

このゲーム、スタメンで出場している桜花学園の11番2年生の朝比奈 あずさ選手（185cm）は、横浜出身（洋光台第二中学）です。縁あって私たちが開いているスピカバスケットボール教室にも参加していました。

彼女の印象は、『自分から課題に積極的に取り組み、人の話をしっかり聞く子』でした。練習内容の説明やスキルのアドバイスに対して、真剣に耳を傾け疑問点があれば、すぐ聞いてくる子でした。またゲームの中で、練習したことに進んでチャレンジすることも多かったです。身長は中学時代に180cmありました。高身長にも関わらず、機敏に動きパスのスキルやディフェンスにも努力していました。毎回の練習でバスケットボールIQの高さを感じたものでした。

その朝比奈選手のドライブからの先制ゴールで始まりました。桜花は、10番アマカ選手（186cm）のゴール下、朝比奈選手のペリメーターでのジャンプショット、4番江村選手の2本のジャンプ所とショットで加点していきます。

東京成徳は、出だしはシュートが決まらず苦しい立ち上がりでしたが、7番古谷選手のペリメーターのジャンプショットが決まると落ち着きを取りもどし、5番青野選手のリバウンドのファウルからのフリースロー、6番須田選手のドライブショット、そして青野選手の3Pが決まり追いかけます。また、ディフェンスの目先を変え、マンツーマンからゾーンへのチェンジングディフェンス、得点した直後のゾーンプレスの仕掛けで、桜花のオフェンスのリズムを崩しにかかります。

その後桜花は、ハイポストのアマカ選手からローポストへ飛び込む6番佐藤選手への合わせやアマカ選手のボールスチールからのゴール下ショットでさらに加点します。

離されたくない東京成徳は、速い展開からの青野選手の3Pが再び決まりついていきます。

第1Qを終了して、21対12で桜花9点のリードとなります。

桜花はアマカ選手、朝比奈選手のハイローの合わせ、他3人への合わせ、江村選手のガード力が光りました。東京成徳はスタートの5人と、タイムシェアで出てくる控え選手の力量に大きな差がなく、どこからでも攻めることができるように感じました。また、高さのある桜花に対して青野選手を中心に、果敢にリバウンドに飛び込む姿が印象に残りました。次号に続きます。